



添田神幸祭山車



添田町 第6次総合計画

第1章 基本構想

第1節 10年後のありたい姿(将来像)

ソエダみらい会議(仮称)での議論や人口フレーム、財政状況及び今後の見通しを踏まえ、10年後のありたい姿(将来像)を次のように定めます。

1 基本理念

町民憲章に掲げられた5つのまちづくりの方向性を、基本理念とします。

- 一、みんなが健康で明るくあたたかい家庭と、うるおいのあるまちをつくります。
- 一、教育とスポーツの振興につとめ、青少年が健全に成長するまちをつくります。
- 一、恵まれた美しい環境と先輩の業績に感謝し、福祉豊かな活力あるまちをつくります。
- 一、創意と工夫により、生産を高め、産業と文化のいきづくまちをつくります。
- 一、恵まれた文化財や美しい自然を大切に、訪れる人々をあたたかく迎える魅力ある観光のまちをつくります。

2 10年後のありたい姿(将来像)

いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち

誰もが孤立することなく健康で、持続可能な農林業や、人々の交流を生み出す観光などによる雇用創出を図り、豊かな自然環境のもと住み続けられる、住みたくなるまちをつくる

KGI※1	基準値(令和2年)	目標値(令和7年)	目標値(令和12年)
住みたいと思う町民の割合※2	45.0%	46.5%	50.0%
住みたいと思う中高生の割合※3	33.6%	35.0%	40.0%



※1 KGI:「Key Goal Indicator」の略で「重要目標達成指標」のこと。本町では、将来像の実現に向けて様々な施策・事業に取り組むことで、町民及び中高生の「住みたいと思う割合」の維持・増加を目指します。
 ※2 町民アンケート調査における「これからも住み続けたい」と回答した割合。
 ※3 中高生アンケート調査における「引き続き住み続けたい」、「進学や就職などで一度離れるかもしれないが、将来的には住みたい」と回答した割合。

● 将来像の実現に向けて

合言葉

みんなでまちづくり



▶ 町民、団体、企業、行政、町外の添田ファン、みんなと一緒に知恵を出し合ってまちづくりに取り組みます!!

第6次総合計画の策定に伴い実施した町民アンケートや行政内部の研修では住民・行政職員ともにみんなでまちづくりに取り組むこと(協働)の必要性は認識されてきました。これまでも、その必要性は認識されてきましたが、実際にはできていなかったのが現状です。

その理由は、行政では「この問題は別の課が担当だから、うちの課は関係ない」、「これは今までやったことがないし、出来ないだろう」、そして町民は「要望さえしたらあとは役場が何とかしてくれる」、というような壁を壊せずに今日に至ったことです。

今後、少子化や人口減少に伴い地域コミュニティの維持が難しくなり、また多様化するニーズに対応するための人的資源や財源も不足してきます。今回の総合計画では、これまでのやり方・考え方にとらわれることなく、みんなと一緒に知恵を出し合い、役割を分担しながら、まちづくりに取り組むことで、この壁を取り払い、10年後のありたい姿の実現を目指します。

▶ まちづくりには様々な分野があります。その中でも、農林業、観光、健康、そして教育の4つの分野を軸に取り組みます。

令和元年度に実施した町民アンケートやソエダみらい会議(仮称)の取組などから見えてきた10年後の添田町の姿・まちづくりの方向性として、「支え合い・助け合いの仕組みづくり」、「農林業の振興」、「観光の振興」などのキーワードが挙げられます。

本町面積の大半を占める農地・山林を適切に管理し、活用するための「農林業」、地域経済の循環と地域活力を生むための「観光」、少子高齢化が進む中で高齢者の活躍・健康寿命の延伸を図り日々の生活を安心して過ごすための「健康」、地域に根差した歴史・文化をつなぎ、地域・経済を支える人財を育むための「教育」、これら4つの分野を軸に、分野横断型(脱縦割り)の体制を構築し、取組を進めます。



▶ プロジェクトチーム(PT)を立ち上げ、取組を具体的に検討し実行します。

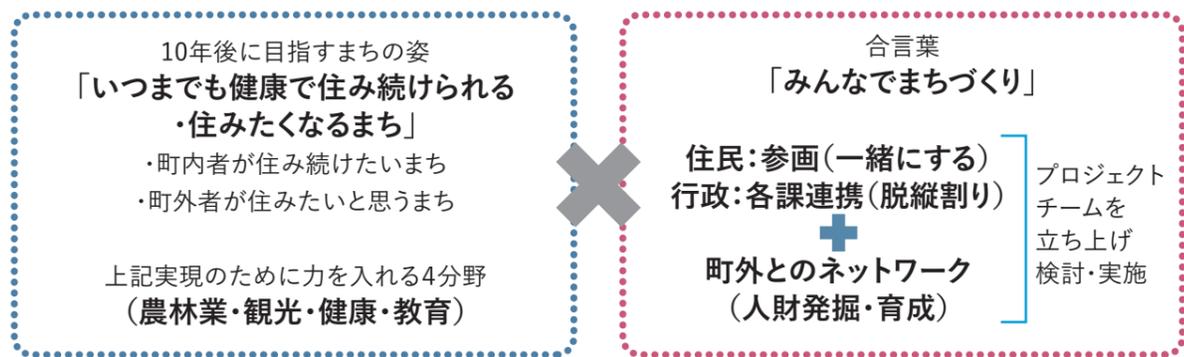
今回の総合計画期間における主要課題として、人口減少、少子高齢化に伴う担い手不足、地域活力の低迷、財源不足が挙げられます。町民の皆さんはもちろん、企業、町外の添田ファンの方とも添田町の魅力や抱える課題を共有し、人財の発掘、育成に取り組むためにも、皆さんが加わったプロジェクトチームを立ち上げ、取組を具体的に検討し実行します。

▶ 目指す添田町の姿「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」

総合計画では、10年後の添田町の姿として「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」を掲げます。

そこで、令和3年度からの前期5年間の取組は「交流人口・関係人口の増加」に取り組みます。添田町に関わる人を増やし、町の魅力を高め、課題解決を図るため、「添田町の今の姿を、町民だけでなく、添田ファンの方にも知ってもらおう」取組を重点的に進めます。

そして、10年後、「住み続けたいまち」、「住みたくなるまち」という人が増えている町の実現を目指します。



【前期5年間(令和3年度～7年度)の取組の方向性】
添田町の今の姿を、町民だけでなく、添田ファンの方にも知ってもらおう
(例：学び・体験プロジェクト)
農林業×観光：関係人口の視点から主に福岡都市圏の居住者を対象とした体験農林業のプログラムの実施
健康×教育：高齢者の活躍の場として、町内の小学生・中学生を対象とした地域の産業・伝統文化に関する学習機会の提供

【やるべきこと】
分野横断型(脱縦割り)の体制構築と持続可能な協働の仕組みづくり
【5年後(令和7年度)の姿】
交流人口・関係人口が増加している

【後期5年間(令和8年度～12年度)の取組の方向性】
添田町に関わる人が増えることで、魅力向上・課題解決が進んでいる
(例：豊かな暮らしプロジェクト)
農林業×観光×健康×教育：町内の高齢者や子どもたち、町外の添田ファンがおもてなし人材として活躍する場として、ヘルスツーリズム等も含め、農泊や林泊など町外者に添田町でしかできない体験の提供

【やるべきこと】
前期5年の取組を踏まえた取組・体制の拡充と暮らしの満足度の向上
【10年後(令和12年度)の姿】
「住み続けたいまち」、「住みたくなるまち」という人が増えている

3 施策別のありたい姿と施策の内容

(1)【定住・愛着】住みたい・住み続けたいまち

①定住・住宅対策の充実

町外から多様な人材が移り住んでいる状況や、快適に暮らせる住宅・宅地が整備されている状況を目指し、空き家や空き地を活用した移住・定住促進の取組や、町営住宅等の適正な維持管理に取り組みます。

②調和の取れた土地利用と良好な景観形成

本町特有の風情を保ちつつ、土地が有効に利用されている状況を目指し、美しい景観づくりや公園及び緑地の適正な維持管理、町有財産の利活用を促進するとともに、土地の基礎資料となる地籍調査を計画的に実施します。

③歴史文化遺産の継承と活用

町内外で既に評価されている指定文化財だけでなく、未指定の歴史的建造物や伝統的な祭り行事などの掘り起こしを行い、脈々と受け継がれてきた大切な歴史・文化の継承と町民相互の交流により町民の町に対する愛着を育み、それらを観光資源として有効かつ適正な活用を図ります。

④文化・芸術活動の振興

オークホール等を活用し、町内で文化・芸術活動が盛んに行われている状況を目指し、活動や発表の場の提供や、文化・芸術活動に触れる機会を提供します。

このアイデアは、ソエダみらい会議(仮称)での意見やアンケートの自由意見を整理したもので、表現等はできるだけ原文のままとしています。

ありたい姿の実現に向けた「みんなでまちづくり」のアイデア

- 関係人口を増やす工夫
 - ・Uターン(友人を巻き込んでUターンの斡旋)
 - ・母校を巻き込んで廃校インスタレーション※
- インフラ整備
 - ・家族や親戚の家をリノベーション(大規模改修～セルフリノベーション)
 - ・空き家を直ぐに住める家として再生
- 添田に住んでもらう ⇄ 添田を楽しむ
 - ・住みたい人、住んでもらいたい人のマッチング
 - ・好きなどころの自慢大会(添田好きなどころ図鑑)
 - ・元気で楽しめる(理想的、長続きする)田舎にしたい

※ インスタレーション：場所や空間全体を作品として体験させる芸術の事です。

●アンケート結果から

町民アンケート結果

- ・住まいの満足度は5.5点(平均5.2点)。
- ・自慢したいものとして英彦山や自然の豊かさが上位。

中高生アンケート結果

- ・居住意向のある人は「伝統・文化」に力を入れていくべきとの回答割合が平均と比べて高い。

(2)【稼ぐ・関係人口】人が集まり賑わうまち

①農林業の振興

地域の特性を活かした安全・安心な農産物の生産や高付加価値の産物づくり、また、森林が有する多面的機能の維持・増進や地域産材や林産物の活用促進を目指し、農地の保全や持続可能な農業経営の確立、荒廃森林の再生、担い手の育成・確保に取り組みます。また、農林業に係る基盤の整備と強化に取り組みます。

農林業における有害鳥獣被害の軽減を図るために、侵入防止策の整備のほか、地域での有害鳥獣対策講習会等を実施します。

②観光の振興

英彦山を中心とする観光が、本町と関わりを持つ人の増加や地域の所得増加、雇用の創出につながる状況を目指し、民間観光プレイヤーの育成・確保や、プロモーション活動の推進、体験プログラム等の開発など、官民連携により民間主導のDMO※1の構築を図ります。併せて公共サイン※2やトイレなどの整備により、受け入れ環境の充実も図ります。また町の拠点には、にぎわいを創出するため、民間事業者と連携した新たな観光事業の整備を目指していきます。

③商工業の振興

商店やスーパー、事業所などの維持と地域経済の活性化を目指し、プレミアム付地域商品券の発行等の地域消費の喚起や、商工会と連携した講習会・セミナーの開催などによる商工業者の活動の支援、工場誘致等による雇用の場の創出を図ります。

④特産物の開発・ブランド化の推進

添田ブランドの商品が町内外に流通している状況を目指し、「道の駅歓遊舎ひこさん」を中心とした特産物の販路の拡大や、農産加工品やジビエなどの特産物の流通を促進するとともに、特産物の更なるブランド化を推進します。

※1 DMO:地域にある観光資源に精通し、地域とみんなで力を合わせて一緒に観光地域づくりを行う組織のこと。

※2 公共サイン:不特定多数の方が利用する公共性の高い標識・地図・案内誘導板等の総称

ありたい姿の実現に向けた「みんなでまちづくり」のアイデア

○添田を楽しむ

- ・英彦山をフィールドに楽しみ方、遊び方の提案・紹介
- ・日本中が「アッ!」と驚く添田町の人口を上回る集客ができるイベントの実施
- ・添田いいとこ(体験)バスツアーの実施

○添田町のファンをつくる(もっともっと知って欲しい)

- ・SNSでの投稿

○地域資源を活かす(ひと・もの・こと)

- ・自然や歴史を通じて町内外問わず、子ども達が添田のファンになって欲しい

●アンケート結果から

町民アンケート結果

- ・まちづくりの方向性として、「農産品や農産加工品をもっと活かしていく」との意見が多数。
- ・力を入れていくべき施策として「雇用対策(企業誘致・企業支援)の充実」との意見が多数

中高生アンケート結果

- ・情報発信手段として中学生はツイッター、高校生はインスタグラムが高い割合。

(3)【支え合い・助け合い】誰もが孤立せず健康に過ごせるまち

①健康づくりの推進と地域医療の充実

子どもから高齢者まで安心して暮らすことができるまちを目指し、健康診査や検診事業などにより生活習慣病やがんの予防を図るとともに、妊産婦や乳幼児の健康づくり、予防接種やウィズコロナ、アフターコロナを見据えた新たな生活様式の定着を進めることなどにより感染症の予防を図ります。

②地域共生社会の実現

誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に提供される地域包括ケアシステムの構築を進めるとともに、困難を抱える人を含め、一人ひとりの多様な社会参加と地域社会の持続を目指し、包括的な支援体制の構築を推進します。

③多様な個性・人権の尊重

各地域で人権尊重の取組が行われている状況や、誰もがその個性と能力を十分に発揮できている状況を目指し、人権啓発活動の支援や人権教育・人権啓発を推進するとともに、人権相談や援護体制の充実、男女共同参画の取組を推進します。



ありたい姿の実現に向けた「みんなでまちづくり」のアイデア

○楽しく交流できるコミュニティづくり

- ・特に男子はグループが出来づらいので趣味を起点として集められるようにしたい
- ・高齢者にさみしい思いをさせないよう、気の合う人とお茶会で楽しみたい
- ・朝、昼いつも会った人には挨拶する
- ・公民館等で高齢者同士が楽しむ会の開催(おしゃべり、料理)
- ・近所のおじいちゃん、おばあちゃんの話聞いて心が和むお手伝いが出来たらいいな

●アンケート結果から

町民アンケート結果

- ・10年後の添田町の姿として「元気健康に暮らしている人が増えている」が最も高い割合。
- ・添田町の現状として「近所付き合い等が豊か」との回答が6割超。

中高生アンケート結果

- ・社会とのつながりに対する満足度は6.4点(平均6.0点)。

(4)【安全・安心】安全・安心に暮らせるまち

①自然環境の保全

町民一人ひとりの環境保護意識の向上により豊かな自然ときれいな水資源が守られている状況を目指し、河川清掃等による河川の水質保全、ごみの排出抑制や浄化槽設置などの推進によるごみ・し尿・生活排水の適切な処理、ごみ等不法投棄の防止に取り組みます。

②交通安全・防犯・消費者対策の充実

交通事故や犯罪のないまちを目指し、交通安全意識や防犯意識の向上を図るとともに、消費者被害対策の充実を図ります。

③防災・危機管理対策の充実

災害に強いまちを目指し、関係機関と連携して災害や救急、有事に備えるとともに、消防団活動の充実や避難行動要支援者等の災害時の円滑な避難体制づくり、自主防災力の向上に向けた自主防災組織の設立支援に取り組みます。

また、浸水や土砂災害などへの予防対策や災害に強い建物づくりを支援します。

④公共インフラの整備

安全・安心を実感できるインフラが整備されたまちを目指し、町道や橋梁、河川の整備や、水道施設・設備の更新・改修を進めるとともに、2次交通等の充実により誰もが利用しやすい地域公共交通の維持を図ります。

(5)【子育て・教育】子育て支援・教育が充実したまち

①子育て支援の充実

親と子が喜びや楽しみを実感できる笑顔と元気、活気あふれるまちを目指し、地域子育て支援拠点を中心とした相談体制の充実を図るとともに、仕事と子育ての両立の支援、経済的支援や児童の育成支援を行います。

②学校教育の充実

郷土を愛し、夢や希望を実現する必要な資質を備えた人間性豊かな子どもの育成を目指し、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を含めた学校教育の充実や新たな小中学校の建設など教育環境の充実を図るとともに、豊かな心や健やかな体を育む教育の推進、児童生徒の通学時の安全確保、地域の教育力の活用、多様な教育的ニーズに対応する育英資金・奨学金などの給付を行います。

③社会教育・生涯学習の推進

誰もが学習活動に参加でき、公民館講座等で学んだ学習成果を職場や地域社会で活用できていることを目指し、シニア世代の生涯学習活動や青少年の健全育成、地域学校協働本部による学校支援活動への取組を進めるとともに、読書活動や生涯スポーツ・スポーツ交流事業の推進、競技スポーツの振興を図ります。



ありたい姿の実現に向けた「みんなでまちづくり」のアイデア

○キ(木、気)になる町

- ・「木」をテーマに環境、自然を考え行動したい
- ・森林は資源でもあるけれど、災害が多く発生している現状をどうにか出来ると良い

○スーパーと連携した移動販売車の呼びかけ

○コミュニティータクシー



●アンケート結果から

町民アンケート結果

・自然環境の満足度は6.9点、身の回りの安全は6.0点、移動のしやすさの満足度は2.4点(平均5.2点)。

中高生アンケート結果

・自然環境の満足度は7.8点、身の回りの安全は6.5点、移動のしやすさの満足度は4.5点(平均6.0点)。

ありたい姿の実現に向けた「みんなでまちづくり」のアイデア

○地域の人々を教育に活かす

- ・ゲリラ的に放課後デザイン教室

○キ(木、気)になる町

- ・地域材、間伐材を使った木の遊具施設「木モクランド」を造る

○地域皆で受け入れるまち

- ・町民のボランティアで結婚応援活動、カップル応援を行う
- ・まちコン、合コンだけでなく、結婚、そして住む場所も協力して探す



●アンケート結果から

町民アンケート結果

・子育てのしやすさの満足度は4.8点、教育環境の満足度は5.3点、(平均5.2点)。
・理想の子どもの数と現実の子どもの数は、ほぼ同数。

中高生アンケート結果

・教育環境の満足度は6.4点、(平均6.0点)。
・生きていくために必要と考える能力で最も高いのはコミュニケーション能力。

(6)【関心・自立】自立と協働のまち

①協働のまちづくりの推進

住民と行政との一体感の醸成を図るとともに、活気ある持続可能なまちを目指し、協働のまちづくりや、住民・地域間の交流活動を推進するとともに、広報紙やホームページなどによる情報発信・情報公開の拡充、地域の実情に合わせたコミュニティ活動の支援を行います。

②社会情勢の変化に対応した行政運営の推進

住民目線の行政サービス提供を目指し、組織機構の見直しや適正な定員管理と人材育成を図るとともに、庁内にあるシステムの適正な管理、5G等の高速・大容量通信にも対応した情報ネットワークの整備・活用、周辺市町村と連携した広域行政の推進、総合計画に基づく施策・事業の実施及び進捗管理を行います。

③効率的・効果的な財政運営の推進

安定した税収の確保や水道事業の経営の健全化を目指し、EBPM*の推進による行財政改革の実施、ふるさと納税の活用を含めた財源の安定的確保を図るとともに、公共施設等の適切な維持管理、水道事業の効率的・効果的な経営を推進します。

*EBPM:「Evidence-based Policy Making」の略で、証拠に基づく政策立案のこと。政策目的を明確化した上で、合理的根拠(エビデンス)に基づく政策の企画・立案が求められている。

ありたい姿の実現に向けた「みんなでまちづくり」のアイデア

- 町の良さをPR
 - ・SNSで勝手にPR
 - ・「楽しく、かっこよく、幸せ」充実した田舎lifeのモデルになる
- 行政区と町の連携
- コミュニティの再生・復活
 - ・歳をとるけれども、10年後も迷惑をかけないようにする
 - ・町内資源の再生・活性化
 - ・コミュニティの再生

●アンケート結果から

町民アンケート結果

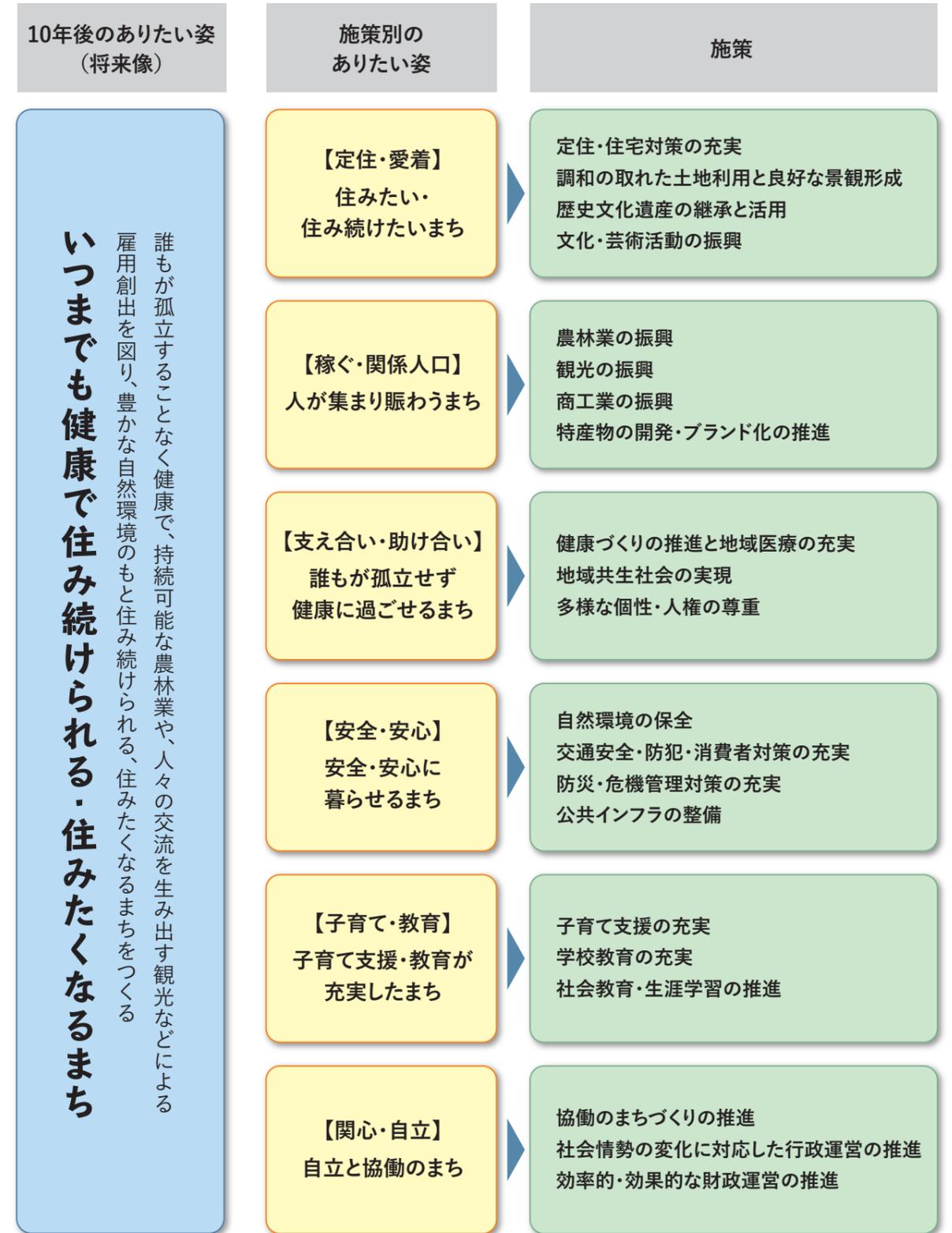
- ・政治や行政への信頼性の満足度は4.3点(平均5.2点)

中高生アンケート結果

- ・中高生とも多世代が集まり町を元気にする行事・イベントについて高い参画意向。
- ・情報発信手段として中学生はツイッター、高校生はインスタグラムが高い割合。



第2節 施策大綱



第3節 人口フレーム(人口ビジョン)

本町の令和22年、令和42年における人口の推計結果は、以下のとおりです。

○添田町の人口の現状:9,407人(令和2年9月末時点)

平成10年以降、毎年平均184人の人口が減少しています。

人口184人規模の行政区は、榊田行政区や添田西行政区、中津野行政区などの平成27年住民基本台帳人口と同程度です。

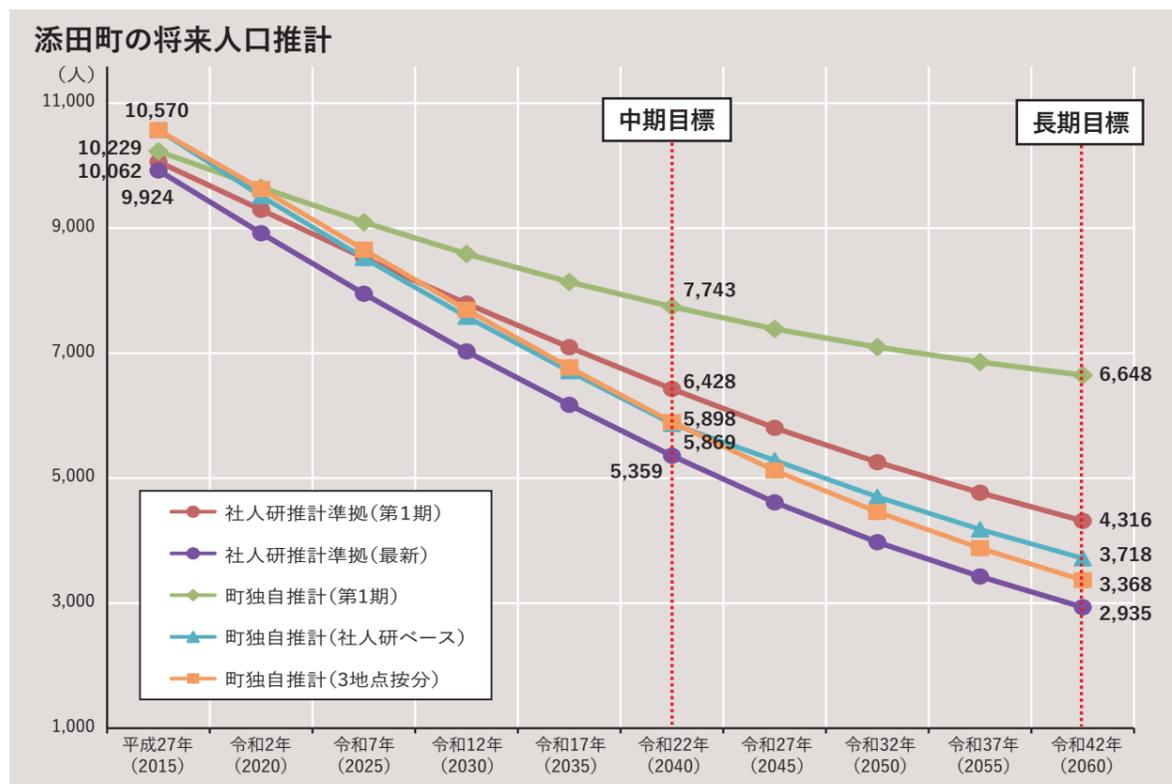
○添田町の将来人口の想定

国立社会保障人口問題研究所(平成30年推計)と町独自の推計を踏まえた目標人口として、

中期目標【20年後(令和22年)】:約6,000人

長期目標【40年後(令和42年)】:約3,500人

を想定します。



上の図は、将来人口について、平成26年度に策定した添田町人口ビジョン(第1期)や国立社会保障人口問題研究所の推計結果(平成24年推計、30年推計)に加えて、町独自の推計として、国立社会保障人口問題研究所の平成30年推計結果をもとに、平成27年9月末時点の住民基本台帳人口での推計結果(社人研ベース)、住民基本台帳の平成17年、22年、27年の9月末時点のデータをもとに、5歳毎の人口の変化を踏まえた推計結果を示しています。

【減少の要因】

○人口減少が続く年齢構成

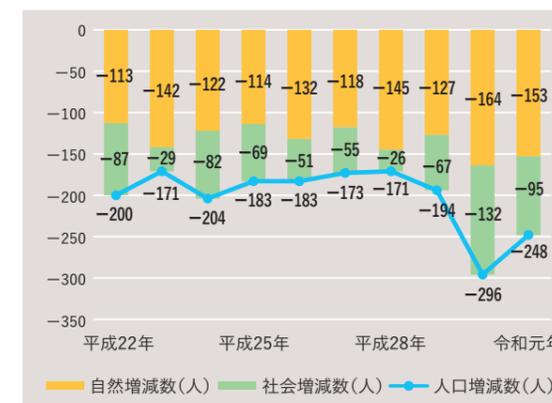
- ・平成27年の国勢調査をもとに、人口ピラミッドをみると、男女とも最も多いのは65～69歳であり、総数では1,049人。次いで、60～64歳で964人です。
- ・これら60歳代の子ども世代にあたる30歳代(871人)、40歳代(1,013人)は60歳代(2,013人)と比べて少なく、30歳代、40歳代の子ども世代にあたる20歳未満の人口(1,439人)も少ないです。縮小再生産の状況であり、今後も人口減少は続きます。



資料:平成27年国勢調査

○死亡数が出生数を、転出数が転入数を上回る状況

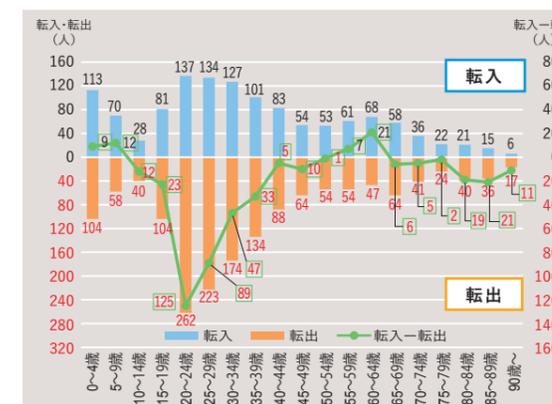
- ・平成22年以降、毎年170人から300人の人口減少が続いています。
- ・特に自然増減(死亡数と出生数の関係)をみると毎年100人以上の減少となっています。一方、社会増減(転入数と転出数の関係)は、平成22年以降、20人から140人の減少となっています。
- ・出生数よりも死亡数が上回り、また、転入数よりも転出数が上回っています。



資料:RESAS(総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工)

○進学・就職に伴う転出後、Uターンする人数が少ない

- ・平成27年から平成30年にかけての性別・年齢階級別の人口移動の状況を見ると、20代から30代の若年層の転出超過が顕著です。
- ・転出超過が最も大きいのは「20～24歳」で262人です。この男女別の内訳をみると、男性が128人、女性が134人とほぼ同数であり、いずれも進学・就職に伴うものと考えられます。
- ・子育て世代とされる20代後半から30代の転出超過が大きいのは、働く場の問題や子育て世代向けの民間賃貸住宅等の住宅供給が少ないことなどが要因として考えられます。



資料:住民基本台帳人口移動報告(平成27年～令和元年)

第4節 財政状況と今後の推移

1 現状と課題

○現段階の財政状況は健全な状態

本町の財政健全化を判断する数値をみると、実質赤字比率△9.06、連結実質赤字比率△21.40、実質公債費比率4.1、将来負担比率は△72.0といずれの比率も国の示す健全化判断基準※を下回っており、現段階での財政状況は健全な状態を保っています。

※ 国の示す健全化判断基準には「早期健全化基準」、「財政再生基準」があり、それぞれ以下のとおりです。

- ・早期健全化基準：実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4指標のうち、1つでも基準を超えると早期健全化団体となり、財政健全化計画の策定が義務付けられます。
- ・財政再生基準：早期健全化基準のうち、将来負担比率を除く3指標のうち、1つでも基準を超えると財政再生団体となり、財政再生計画の策定等が義務付けられるほか、地方債の発行が制限されることとなります。

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
添田町(令和元年度)	△9.06	△21.40	4.1	△72.0
早期健全化基準	15.00	20.00	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

○自主財源が乏しく、将来的にも財源に十分な余裕がない状況

しかし、財政構造をみると、歳入面では、町税を中心とした自主財源が歳入の3割にも満たない状況です。歳出面では、人件費、扶助費、公債費といった義務的経費(支出が義務づけられ、簡単に削減できない経費)が多くを占め、硬直化した状況となっています。

また、本町では近年、少子高齢化が急速に進み、予想を超える人口減少が続く状況となっていることから、歳入では地方交付税や町税の減少、歳出では社会保障費の増加が見込まれます。

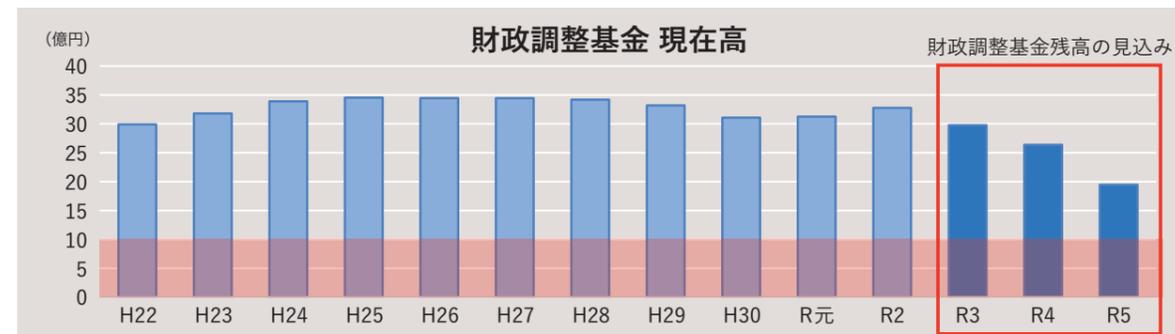
○自主財源をより多く確保する取組が重要

「添田町第6次総合計画」に掲げる施策・事業の確実な推進を図りながら、さまざまな政策課題に対応していくためには、国・県の補助金などを活用するほか、町税や使用料などの自主財源をより多く確保する取組が重要となっています。

2 第6次総合計画期間における財政見込み

第6次総合計画期間中の財政運営は、公営住宅整備事業や学校環境整備事業など、将来への投資となる大型事業が見込まれ、その財源を確保するには、国・県の補助金のほか地方債の借入れが必要となります。その結果として、地方債の借入れによる地方債現在高の増加、ひいては現在減少傾向にある公債費(地方債償還に係る経費)の増加が見込まれます。

このような状況をもとに、今後5年以内に予定される大型事業を考慮した財政状況の単純試算を行った結果、学校環境整備事業完了後には、町の貯金にあたる財政調整基金が大幅に減少し、より厳しい財政運営が予想されることから、その対応が求められます。



資料：添田町中期財政見通し【令和3年度～令和5年度】(令和2年12月)から引用・一部編集

3 今後の財政運営

第6次総合計画期間における事業の推進にあたっては、歳入全般における将来推移や将来需要額を的確に把握し、後年度負担を考慮した計画的な財政運営を目指します。

また、コロナ禍や災害復旧など有事の財政需要に対応し得る持続可能な財政運営に必要な基金残高(財政調整基金を、予算編成及び不測の事態に対応するために最低限必要となる10億円)を維持するためにも、計画的・効果的な対策が必要となってくることから、以下の取組を進めます。

○歳入面では国や社会情勢の影響を受けにくい取組を展開

滞納解消の取組のほか、施設使用料等に係る適正な受益者負担についての検証やクラウドファンディングの取組など、自主財源・新しい財源の確保に取り組みます。

○歳出面ではビルド&スクラップの方針のもと町負担を極力抑える

社会情勢や政策的課題に対応するための新事業を行うにあたり、既存事業を見直し優先的順位による取捨選択を行うビルド&スクラップの方針のもと、経常経費の増加や、地方債や一般財源などの町負担を極力抑え、財政調整基金残高への影響を抑制します。

また、役場庁舎を含めた公共施設の老朽化による維持補修費の増大が予測される中、将来負担軽減を図るためにも平成29年3月に策定した公共施設等総合管理計画等を踏まえた施設整備を行うとともに、施設統廃合による費用削減の検証、非効率的な老朽化施設処分について検討を進めます。

○最大限の効果が発揮できるように創意工夫を図る

現時点で本町の財政状況は健全な状態を保っているとはいえ、将来的に財政状況が非常に厳しくなることが見込まれています。

住民ニーズに応じた事業など優先度の高い重点分野への投資を行うためにも、事業の効果・検証を行うとともに決算審査等の意見を踏まえ、計画に記載する事業であっても聖域なく精査を行い、最大限の効果が得られるよう住民との協働を推進するとともに、最小の経費で最大の行政効果が発揮できるよう創意工夫を図ります。

第5節 土地利用構想

本町は、急速な過疎化の進展により町内の各所で空き地・空き家・空き店舗がみられ、山間部においては農地及び林地の荒廃が進むなど多くの課題を抱えています。

本町の今後のまちづくりを進めていく上では、豊かな自然環境との調和を図るとともに、更なる人口減少に備えて、小さな拠点や基幹集落を中心とした集落ネットワーク圏の考え方に基つきながら地域の特性や課題を踏まえた土地利用を推進していく必要があります。

1 整備の基本方針

(1) 市街地等

住民が安心して暮らせる快適な市街地環境の形成に向け、ユニバーサルデザインの考え方にに基づいた歩車空間の整備や分かりやすい公共サイン整備を進めるとともに、日常生活に欠かすことができない生活サービス機能の維持・集積を図ります。

市街地周辺については、農地の転用や宅地開発が進み、農地と住宅地の混在も現れていることから、新たな宅地開発等に際しては周辺環境の影響を勘案した開発の誘導を図ります。

老朽化が進む公共施設については、危険性や利用状況、費用対効果を踏まえ統廃合を進めます。また、統廃合によって生じる跡地等は、町の活性化に資するよう民間事業者の積極的な活用を促します。

(2) 集落地

空き地、空き家対策を進め、移住・定住の促進、集落機能の維持を図ります。また、人口減少は更に進むと想定されることから、今後の集落のあり方について地域住民と協働のもと検討します。

(3) 農地

農地については、農業・農村が有する多面的機能の維持を図るため、優良農地の確保とともに耕作放棄地の解消及び抑制を図ります。

(4) 森林

林道及び作業路網の整備等を進め適切な森林整備や管理を行い、水源涵養や治山治水に生かすとともに、森林空間を観光・体験・交流・散策の場として多面的な活用を図ります。

2 軸・拠点・ゾーンの形成

町の将来像の実現に向けて、次のような町の軸と拠点を形成し、これを核としたゾーンの形成、自然と調和した秩序と均衡ある土地利用を推進します。

(1) 軸の形成

① 広域交流連携軸

JR日田彦山線(BRT導入に伴う活性化の検討)、主要地方道52号を「広域交流連携軸」とし、北九州、福岡、田川、日田方面とのアクセス強化により、広域観光ネットワークの充実と、連携軸上へのにぎわい拠点の整備により、観光交流客の誘客を図ります。

② 観光交流軸

広域交流軸と拠点である英彦山観光の玄関口・彦山駅と、英彦山までの国道500号沿いを「観光交流軸」とし、自然と憩いのおもてなし空間形成を図ります。また、アウトドアアクティビティをテーマとした滞留拠点の整備により、交流人口の拡大を図ります。

(2) 拠点の形成

① にぎわい拠点

広域交流連携軸上の添田駅周辺、道の駅歓遊舎ひこさん周辺、彦山駅周辺を本町の産業の活性化を担う「にぎわい拠点」と位置付けます。ここでは、にぎわい創出に向けたマーケティング調査等を踏まえ、既存施設の再整備、新たな商品・サービスづくりを進めます。

② 滞留拠点

観光交流軸上の英彦山地区を「滞留拠点」と位置付けます。ここでは、従来の英彦山観光にプラスαの楽しみを提供するアウトドア体験等の場所づくりに向けて、周辺環境や景観の整備、マーケティング調査等を踏まえ、民間と連携した既存施設の活用方策や新たな体験プログラムの検討を進めます。

(3) ゾーンの形成

① 日常生活機能集積ゾーン

役場や金融機関、商店、病院などが立地する市街地エリアを「日常生活機能集積ゾーン」として位置付けます。本町での暮らしを支える機能が集積しており、今後とも機能の維持を図るとともに、空き家等を活用し新たな機能の誘導を図ります。

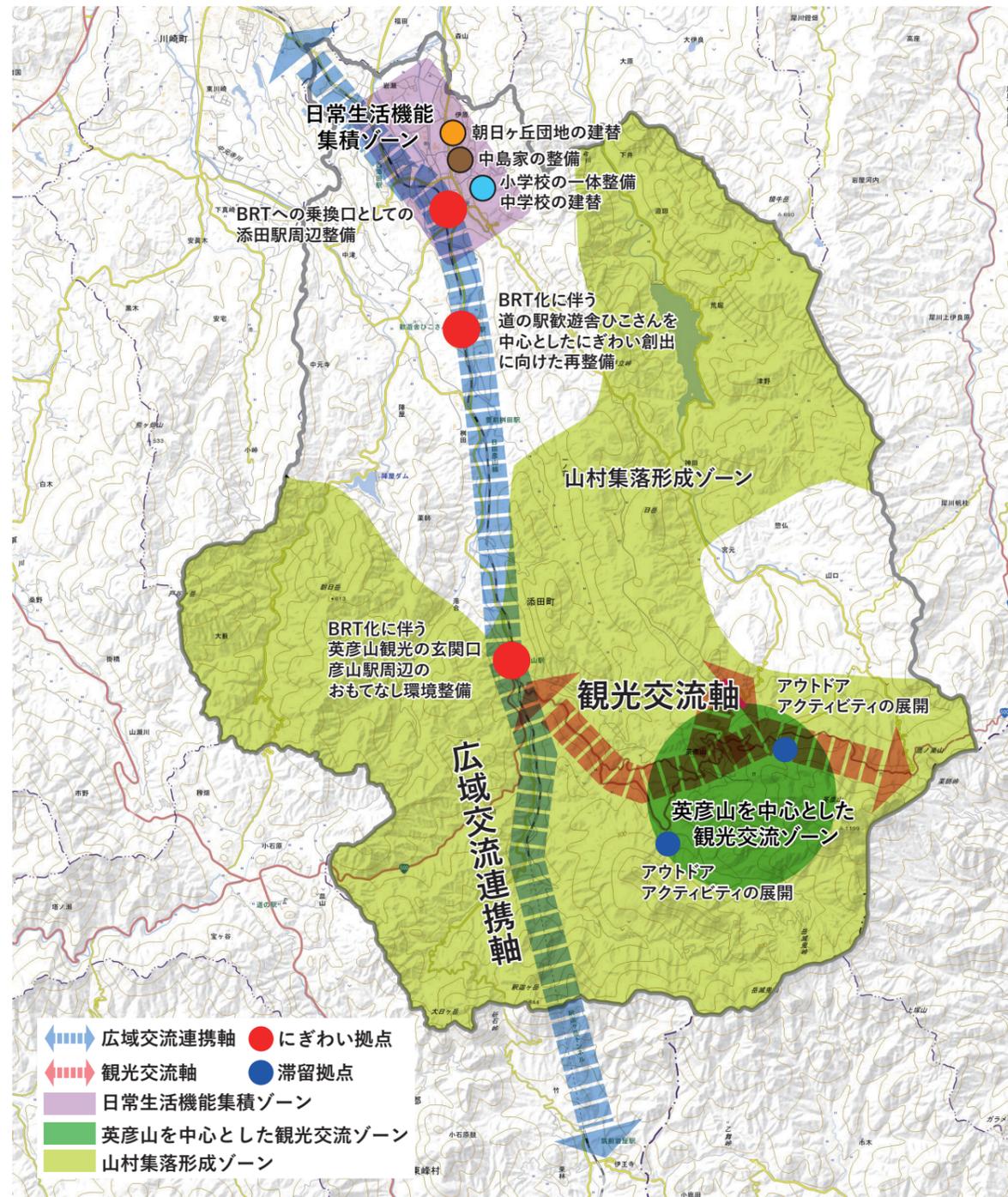
② 英彦山を中心とした観光交流ゾーン

英彦山と観光交流軸一帯を「観光交流ゾーン」と位置付けます。本町にとって英彦山は歴史的、文化的にも貴重な地域資源であるとともに、多くの人を惹きつける観光資源でもあります。参道等を中心に歴史文化財の保存・活用を進め、誰もが訪れ楽しめるおもてなしの空間づくりを進めます。

③山村集落形成ゾーン

町による行政区別の将来人口推計結果では、今後20年間のうちに人口が100人以下となる行政区が山間部を中心としていくつか出現します。これらの集落では、65歳以上人口の割合が6割以上を占めると考えられます。今後の山村集落での住まい方について、住民との協働を基本として、将来像の設定とその実現に向けた具体的な取組の検討を進めます。

【図：土地利用構想図】



第6節 基本構想策定のプロセス

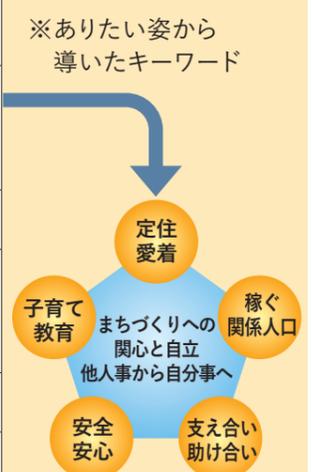
1 ソエダみらい会議(仮称)の開催

ソエダみらい会議(仮称)とは、本計画策定にあたり、町民に限らず、町外にお住まいの添田ファンの皆さんと、将来人口や財政の見通しなどを踏まえながら、添田町の『みらい』について語り合う会議として開催したものです。参加資格は特に設けず、100人集まるまで(仮称)とするということではじめました。

令和元年度に4回、令和2年度に6回の計10回開催し、本計画の将来像や分野別のありたい姿のキャッチフレーズなどは、このソエダみらい会議(仮称)での意見を踏まえています。

回数	開催日	内容
第1回	令和元年 11月30日(土)	①添田町の現状(魅力や自慢・問題や困っていること) ②セッション～添田町のありたい姿～
第2回	令和元年 12月14日(土)	①添田の色(イメージ) ②添田町のありたい姿を語る ※第1回の内容も踏まえ、ありたい姿について語り合いました
第3回	令和2年 1月28日(火)	①テーマ別の現状の共有 ②取組のアイデア(可能性)
第4回	令和2年 2月15日(土)	③取組の具体化(誰が何をどのように) ※キーワード別に現状や課題、取組のアイデアについて語り合いました
第5回	令和2年 6月25日(木)	①昨年度の振り返り ②今年度の進め方について ③基本構想について

見出し	会議で表出されたありたい姿(抜粋)
定住・誇り	・子ども達が誇れるまち ・添田を出た人が添田で育ってよかったと口にする町 ・若者が定住する町
豊かさ・稼ぐ	・食べ物がおいしく感じるまち(野菜、お茶など) ・余分なものが無い町と思える人が増える町 ・人が集いたくなり、住みたくなるまち
子育て・教育	・教育、子育ての充実したまち ・子育てしやすいまち
自立・対話	・1人1人が自立したまち ・対話が文化(習慣)として根付いている町 ・みらい会議に参加する町(参加したくなる町)
安全・安心	・安全安心な町 ・自然災害に強いまち
幸せ・助け合い	・余生をのんびり過ごせるまち ・なぜか、どこかで、何かにつながっているまち ・誰もが孤立しないまち



回数	開催日	内容
第6回	令和2年 7月21日(火)	①これまでの議論をもとに、自分事としての取組を考える ※第6回から9回にかけては、本計画のキーワードである「[他人事]から「自分事」へ」をもとに、自分事の活動・仲間との活動の実践に向けて活動の具体化に向けて検討を重ねました。 ※その結果、令和2年度内に実施する取組として3つの実行委員会が立ち上がり、事業実施に至りました。 令和2年11月21日(土)実施 集いの場づくりとしての「まちづくり勉強会」 令和2年12月5日(土)実施 空き家の活用を目的とした「空き家巡りツアー」 令和2年12月12日(土)実施 課題解決に向けた「地域活動団体交流会」
第7回	令和2年 8月30日(日)	
第8回	令和2年 9月27日(日)	
第9回	令和2年 10月17日(土)	
第10回	令和3年 1月23日(土)	①実行委員会主催事業の振り返り ②来年度に向けて

【各回の様子】

第1回キックオフ



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



第10回



参加証の缶バッジ



○3つの実行委員会の事業概要

企画名	問題意識	概要
まちづくり勉強会	分野: 支え合い・助け合い 誰もが孤立せず、健康に過ごせるまちを実現するためには、男性でも気軽に集まり、交流できる場がないだろうか。 町が色々な取組をされているが知らないことも多いので、それを知りたいことをキッカケにしてはどうか。	・実行委員が所属する4行政区(添田東、添田中、伊原、榊田)で現在抱えている課題や、自分たちが関心のある事をテーマに、町との座談会を実施する。 ・座談会終了後は、参加者のメンバーで交流会(感想会)を実施し、各地域が取り組んでいることや、地域の課題について共有する。
空き家巡りツアー	分野: 定住・愛着/稼ぐ・関係人口 町では空き家バンク制度を設け、その活用を促進しているが登録件数は少ない。一方で、空き家を求める人は多く、物件を待っている方がいる。空き家バンク制度を知ってもらうとともに、空き家活用を考える機会を作ってはどうか。	・現在空き家バンク制度に登録されている物件の中から、所有者様の理解を得た物件について、実際に見て回るツアーを実施する。 ・ツアーは5軒の物件を巡る。町内各地の様々なタイプの物件を見てもらうことで、空き家バンクへの登録促進と、利活用に向けて検討してもらう機会とする。
地域活動団体交流会	分野: 関心・自立 まち、地域づくり活動に関して、自分たちでできることから主体的に課題を解決または改善していく町民の活動を活性化したい。 まずは、公共の利益に資する地域の活動団体にスポットをあて、団体間の交流を行ってはどうか。	・町内で活動している行政区、地区公民館、ボランティア団体、地縁団体、NPO等団体関係者が一堂に会し、情報交流や人的交流の機会とする。 ・5団体から活動発表してもらい、その後交流の場を設け、それぞれの活動の活性化と団体の拡充を図り、自立と協働のまちづくりへの機運を高める。



まちづくり勉強会の様子



空き家巡りツアーの様子



地域活動団体交流会の様子

2 アンケート調査の実施

(1) 調査の目的

現在、わが国では、すでに人口減少が始まっており、今後さらに人口が減少していくことが予想されています。

本町においても、将来的に、人口が減少していくものと見込まれる中、町民の生活の質を高めるべく、様々な取組を進めています。

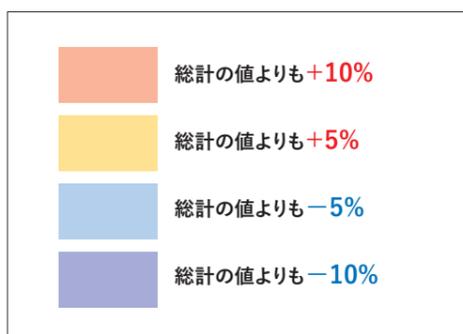
今回、本町の最上位計画である「総合計画」の計画期間が令和2年度に終了することから、添田町の10年後のありたい姿の検討に向けて、町民及び次代を担う若者(中学生・高校生世代を対象)の意向を把握することを目的にアンケートを実施しました。

(2) 調査対象等

企画名	町民アンケート調査				若者アンケート調査			
調査対象	・18歳以上の町民から無作為抽出により約1,000人を抽出。				①添田中学校の1年生から3年生までの全生徒 ②住民基本台帳をもとに、町内に住民票を有する中学生、高校生に該当する年齢の方			
調査期間	令和元年10月1日(火)～ 令和元年10月17日(木) ※10月31日到着分まで有効扱い				令和2年7月13日(月)～ 令和2年7月31日(金) ※8月6日到着分まで有効扱い			
調査手法	・郵送により調査票を配布し、同封の返信用封筒にて回収。				・調査対象①は中学校を通じて直接調査票を配布し、回収。 ・調査対象②は郵送により調査票を配布し、同封の返信用封筒にて回収。			
配布・回収状況	配布数	不達分	回収数	回収率	配布数	不達分	回収数	回収率
	1,052	8	271	26.0%	461	0	265	57.5%

・表及びグラフ中の「SA」は単数回答、「MA」は複数回答 「N」は母数を示しています。
・クロス集計表の色分けについては、下記のとおりです。

問10	総計 (N=271)	男性 (N=99)	女性 (N=156)	25歳未満 (N=44)	25～49歳 (N=71)	50～64歳 (N=61)	65歳以上 (N=65)
1. 添田町の農業や林業を活かして、起業する人が生まれている	29.2%	29.3%	30.1%	29.5%	28.2%	29.5%	30.8%
2. 添田町の農産物を使った食事や飲料を提供するカフェ・レストランが増えている	32.8%	28.3%	35.9%	43.2%	43.7%	31.1%	13.8%
3. 英彦山を中心に今まで以上に国内だけでなく、海外からの観光客が訪れている	28.4%	31.3%	26.9%	27.3%	23.9%	34.4%	29.2%
4. 公共施設等が定期的に修繕され、古くても快適に使用できている	25.1%	21.2%	27.6%	20.5%	33.8%	23.0%	23.1%
5. 子どもから高齢者までお互いに尊重し、支え合っている	39.5%	30.3%	44.2%	36.4%	38.0%	34.4%	47.7%
6. 他者を思いやり、日本人、外国人を問わず困っている人を助けられる人が増えている	19.2%	20.2%	18.6%	27.3%	14.1%	16.4%	18.5%
7. 健康で元気に暮らしている人が増えている	43.2%	42.4%	42.3%	31.8%	39.4%	44.3%	53.8%
8. 添田町に縁のある人や添田町が好きの人が、地域活動等に関わっている	15.1%	21.2%	12.2%	18.2%	15.5%	11.5%	21.5%
9. 添田町の情報が頻繁に発信され、町の取り組みが良く分かるようになっている	24.7%	26.3%	22.4%	15.9%	22.5%	27.9%	26.2%
10. その他	10.0%	10.1%	10.3%	13.6%	12.7%	14.8%	0.0%

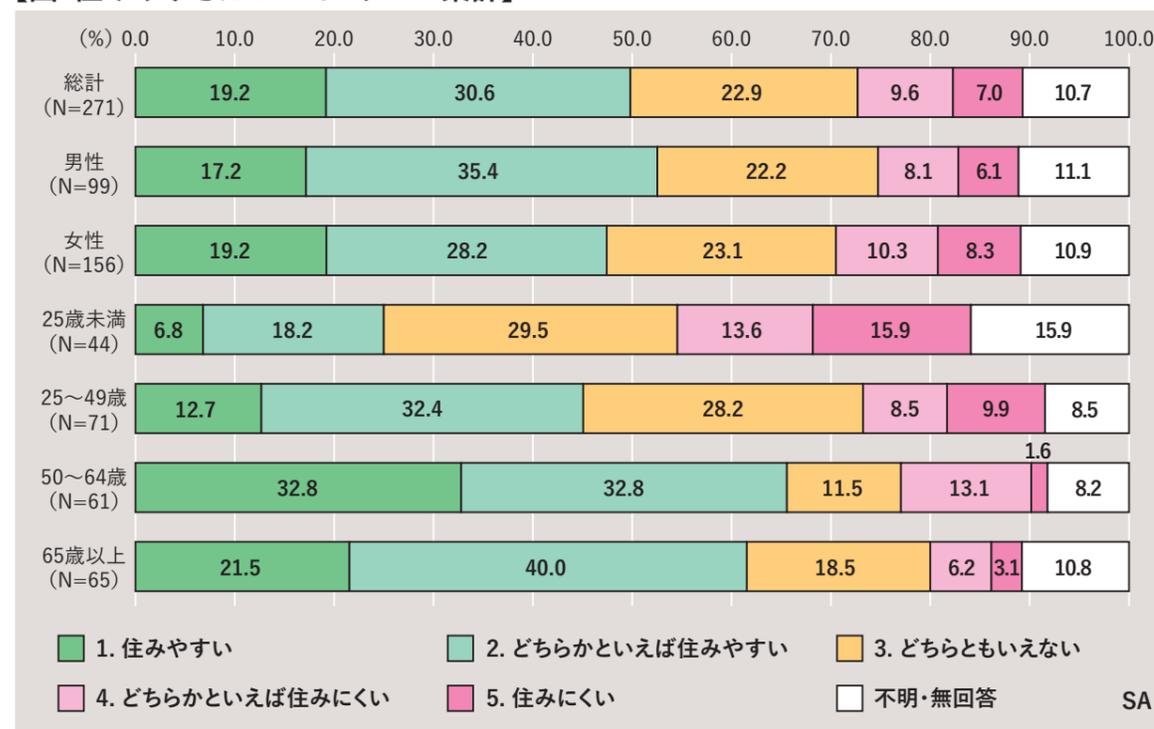


(3) 町民アンケート調査結果

① 添田町の暮らしについて

●総合的には住みやすいと感じる人が多いが、交通面、活気・賑わいの面では不満

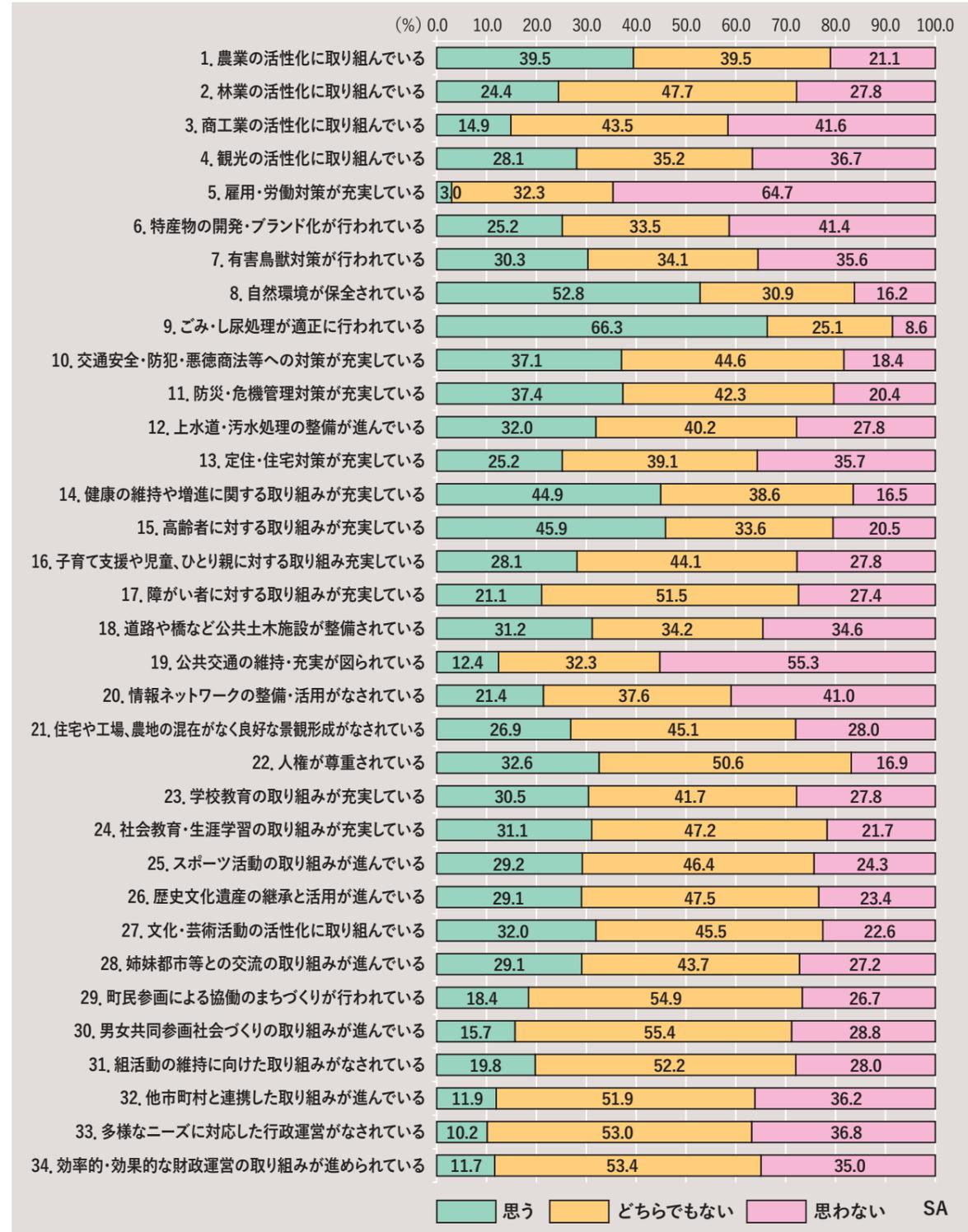
【図：住みやすさについてのクロス集計】



② 添田町のこれまでのまちづくりの評価について

- 「ごみ・し尿処理」や「自然環境の保全」に対する評価は高いが、「雇用・労働対策」や「公共交通の維持・充実」に対する評価は低い

【図：現総合計画に基づく各施策の評価(思う・思わない割合※不明・無回答を除く)】



③ 添田町のこれからのまちづくりについて

- 年齢層により10年後の町の姿やまちづくりの方向性にバラツキが見られるが「健康」や「観光」は共通

【図：10年後の添田町の姿についてのクロス集計】

問 10 総計の割合が高いもの順で並び替え	総計 (N=271)	男性 (N=99)	女性 (N=156)	25歳未満 (N=44)	25~49歳 (N=71)	50~64歳 (N=61)	65歳以上 (N=65)
7. 健康で元気に暮らしている人が増えている	43.2%	42.4%	42.3%	31.8%	39.4%	44.3%	53.8%
5. 子どもから高齢者までがお互いに尊重し、支え合っている	39.5%	30.3%	44.2%	36.4%	38.0%	34.4%	47.7%
2. 添田町の農産物を使った食事や飲料を提供するカフェ・レストランが増えている	32.8%	28.3%	35.9%	43.2%	43.7%	31.1%	13.8%
1. 添田町の農業や林業を活かして、起業する人が生まれている	29.2%	29.3%	30.1%	29.5%	28.2%	29.5%	30.8%
3. 英彦山を中心に今まで以上に国内だけでなく、海外からの観光客が訪れている	28.4%	31.3%	26.9%	27.3%	23.9%	34.4%	29.2%
4. 公共施設等が定期的に修繕され、古くても快適に使用できている	25.1%	21.2%	27.6%	20.5%	33.8%	23.0%	23.1%
9. 添田町の情報が頻繁に発信され、町の取り組みが良く分かるようになっている	24.7%	26.3%	22.4%	15.9%	22.5%	27.9%	26.2%
6. 他者を思いやり、日本人、外国人を問わず困っている人を助けられる人が増えている	19.2%	20.2%	18.6%	27.3%	14.1%	16.4%	18.5%
8. 添田町に縁のある人や添田町が好きなのが、地域活動等に関わっている	15.1%	21.2%	12.2%	18.2%	15.5%	11.5%	21.5%
10. その他	10.0%	10.1%	10.3%	13.6%	12.7%	14.8%	0.0%

【図：まちづくりの方向性についてのクロス集計】

問 11 総計の割合が高いもの順で並び替え	総計 (N=271)	男性 (N=99)	女性 (N=156)	25歳未満 (N=44)	25~49歳 (N=71)	50~64歳 (N=61)	65歳以上 (N=65)
6. 高齢になっても今の住まいで住み続けられる仕組みづくりを進める	51.3%	41.4%	57.1%	43.2%	43.7%	45.9%	67.7%
4. 起業支援や企業誘致により町内の雇用を創出する	45.4%	48.5%	44.2%	40.9%	33.8%	39.3%	60.0%
2. 英彦山を中心とした観光商品の開発を進め、国内外からの来訪客誘致を図る	36.2%	40.4%	31.4%	34.1%	35.2%	37.7%	35.4%
1. 農産品・農産加工品のブランド化や国内外への販路開拓・拡大を促す	28.4%	26.3%	30.1%	38.6%	28.2%	19.7%	30.8%
9. 定住促進住宅の確保や就労支援により町外からの人口流入を促進する	27.7%	30.3%	27.6%	13.6%	35.2%	32.8%	26.2%
5. 英彦山の豊かな自然環境を活かした教育を行う	22.9%	18.2%	26.9%	22.7%	32.4%	24.6%	13.8%
3. 英彦山や国指定重要文化財の中島家住宅など、歴史文化に着目した取り組みを行う	13.7%	17.2%	12.8%	15.9%	16.9%	21.3%	6.2%
7. 集落の維持や集落間の連携に向けた活動を支援する	12.5%	17.2%	9.0%	20.5%	9.9%	8.2%	12.3%
8. 町民参画による協働のまちづくりを徹底する	9.6%	14.1%	5.1%	6.8%	11.3%	6.6%	10.8%
10. その他	5.9%	7.1%	5.1%	4.5%	9.9%	4.9%	1.5%

(4) 若者アンケート調査結果

① 添田町での暮らしについて

- 満足は6割以上。中でも満足度が高いのは自然環境、低いのは移動のしやすさ
- 添田町への居住意向は約3割。暮らしに満足している人は居住意向も高い

【図：住みたい理由についてのクロス集計表】

住みたい理由 MA	都会での生活に憧れがあるから	新しい環境で自分の力を試したいから	添田町には希望する職場や職業がないから	添田町では通勤など交通が不便だから	添田町では日常生活が不便だから	添田町の近隣には余暇施設が少なく、退屈だから	その他	
総計	174	47.1%	36.2%	48.9%	48.3%	47.1%	60.9%	6.3%
男性	78	44.9%	38.5%	41.0%	42.3%	41.0%	57.7%	3.8%
女性	87	52.9%	36.8%	55.2%	52.9%	51.7%	65.5%	6.9%
中学生	128	53.1%	37.5%	44.5%	43.8%	43.8%	62.5%	7.8%
高校生	44	31.8%	31.8%	63.6%	63.6%	56.8%	59.1%	2.3%
満足している	88	46.6%	42.0%	43.2%	38.6%	35.2%	48.9%	4.5%
満足していない	82	47.6%	28.0%	54.9%	59.8%	61.0%	74.4%	8.5%

② 将来の職業等について

- 公務員、医師・看護師、教師・教員・保育士のほか、YouTuberやプロスポーツプレイヤーなどのネット関係の職種も上位を占める
- 職業に就くために必要だと考える専門能力で最も高いのは言語能力

【図：職業上位項目×専門能力】

	外国語の習得など、海外の人とのコミュニケーションを深めるための言語能力	農林業分野で価値の高い作物をつくり、販売するための知識と技術力	商品の販売やサービス提供に必要な消費者への接客応対力	会社運営や起業(新しく事業を起すこと)などに必要な経営能力	社会課題の把握と、課題解決策を検討するための調査・分析能力	プログラミングなど、課題解決にICTを活用する情報処理能力	芸術文化に通じる新しいものを生み出す創造性や独創性	スポーツを通じた専門知識や高い身体能力	その他
総計	46.2%	8.8%	22.9%	19.5%	33.6%	26.0%	27.5%	15.3%	6.5%
公務員	55.8%	7.0%	16.3%	23.3%	58.1%	34.9%	14.0%	14.0%	4.7%
医師・看護師	60.0%	11.4%	28.6%	25.7%	37.1%	25.7%	22.9%	14.3%	5.7%
教師・教員・保育士	67.6%	8.8%	23.5%	14.7%	44.1%	35.3%	23.5%	17.6%	11.8%
会社員	53.8%	7.7%	42.3%	42.3%	57.7%	53.8%	26.9%	7.7%	3.8%
絵を描く職業	50.0%	7.7%	30.8%	26.9%	19.2%	30.8%	88.5%	7.7%	15.4%
YouTuberなどの動画投稿者	50.0%	12.5%	29.2%	25.0%	54.2%	45.8%	33.3%	20.8%	12.5%
デザイナー	58.3%	8.3%	37.5%	41.7%	45.8%	33.3%	62.5%	16.7%	12.5%
プロスポーツプレイヤー	52.9%	11.8%	35.3%	23.5%	41.2%	41.2%	29.4%	41.2%	11.8%

●生きていくために必要と考える能力で最も高いのはコミュニケーション能力

【図：属性×必要能力】

生きるために必要な能力	自分自身の強み・弱みを認識するなど、客観的に自分自身の状態を判断する能力	自律・協調性など、他人を思いやる心	人との信頼関係を築き、他者と上手に意思疎通を図るためのコミュニケーション能力	学校で学ぶ知識・技能などの学力	知らないことに挑戦するチャレンジ精神	取り組んだことに諦めず最後まで取り組む姿勢や態度	その他	
総計	265	61.9%	67.2%	76.2%	44.2%	57.4%	65.3%	3.8%
男性	129	57.4%	60.5%	72.9%	43.4%	56.6%	58.1%	3.1%
女性	127	66.9%	74.0%	79.5%	44.1%	58.3%	73.2%	3.9%
中学生	197	62.9%	67.5%	76.1%	47.2%	61.9%	67.0%	4.1%
高校生	65	60.0%	67.7%	76.9%	35.4%	44.6%	61.5%	1.5%
住みたい	89	62.9%	62.9%	78.7%	36.0%	53.9%	65.2%	4.5%
住みたいくない	174	61.5%	69.5%	75.3%	48.3%	59.8%	65.5%	3.4%

③ 添田町が今後力を入れていくべきこと

- 産業振興、生活基盤が4割以上。居住意向のある人は伝統・文化の割合が高い

【図：属性×力を入れていくべきこと】

重点分野	産業振興	起業・雇用	教育	福祉	伝統・文化	生活基盤	きずなづくり	その他	
総計	265	49.8%	17.7%	36.2%	29.8%	21.9%	45.3%	16.6%	5.3%
男性	129	44.2%	22.5%	34.9%	24.8%	19.4%	36.4%	9.3%	4.7%
女性	127	55.9%	12.6%	35.4%	37.0%	25.2%	55.1%	25.2%	5.5%
中学生	197	45.7%	12.2%	35.5%	28.9%	25.4%	41.1%	16.2%	5.1%
高校生	65	61.5%	33.8%	36.9%	32.3%	10.8%	58.5%	15.4%	6.2%
住みたい	89	46.1%	16.9%	36.0%	31.5%	34.8%	43.8%	21.3%	1.1%
住みたいくない	174	51.7%	18.4%	36.8%	28.7%	15.5%	46.0%	14.4%	7.5%



④まちづくり活動への参画意向等

- 中学生は「大人から子どもまで多世代が集まり、参加者みんなで企画を考え実行まで関わって町を元気にする行事・イベント」
- 高校生は「大人から子どもまで多世代が集まり、主催者の補助として関わって町を元気にする行事・イベント」

【図：属性×まちづくり活動への参画意向等】

まちづくり活動への参画意向		対象		関りの程度		目的			
		大人から子どもまで多世代が集まる行事・イベント	同年代の中・高校生などを対象とした行事・イベント	参加者みんなで企画を考え、実行まで関わる行事・イベント	主催者の補助として関わる行事・イベント	町を元気にするためにを行う行事・イベント	自分の住んでいる地域を元気にするためにを行う行事・イベント	自分たちの思い出を作るために実施する行事・イベント	清掃等のボランティア活動(油木ダム周辺の環境整備、英彦山清掃登山など)
総計	265	60.4%	42.6%	48.7%	44.9%	47.5%	26.4%	33.2%	16.2%
男性	129	58.9%	40.3%	48.8%	44.2%	46.5%	27.9%	30.2%	14.0%
女性	127	61.4%	45.7%	49.6%	45.7%	49.6%	25.2%	37.0%	17.3%
中学生	197	59.4%	45.2%	51.3%	42.1%	49.2%	27.4%	34.0%	17.3%
高校生	65	64.6%	35.4%	41.5%	53.8%	44.6%	24.6%	29.2%	13.8%

⑤情報発信手段

- 中学生はツイッター、インスタグラム、ポスター・チラシ
- 高校生はインスタグラム

【図：情報発信手段についてのクロス集計表】

情報発信手段		ツイッター	インスタグラム	フェイスブック	広報紙	ポスター・チラシ	その他
総計	265	37.4%	36.6%	11.7%	14.3%	26.0%	1.5%
男性	129	42.6%	33.3%	12.4%	14.0%	23.3%	0.8%
女性	127	33.1%	40.2%	11.0%	13.4%	29.9%	1.6%
中学生	197	41.1%	32.5%	14.2%	15.7%	31.5%	1.0%
高校生	65	26.2%	50.8%	3.1%	10.8%	10.8%	3.1%



英彦山山道を走る

